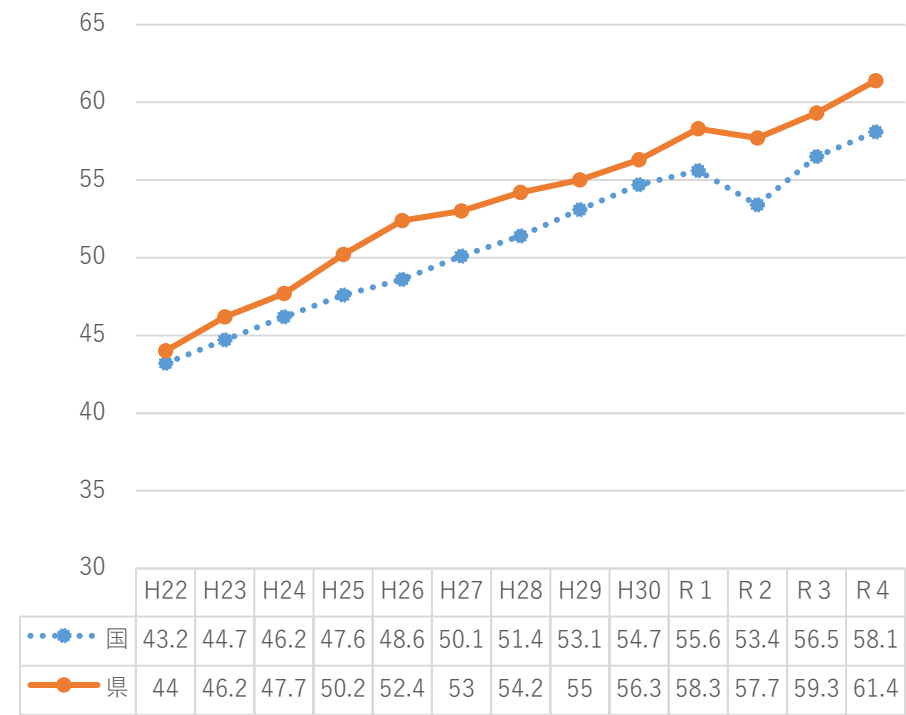


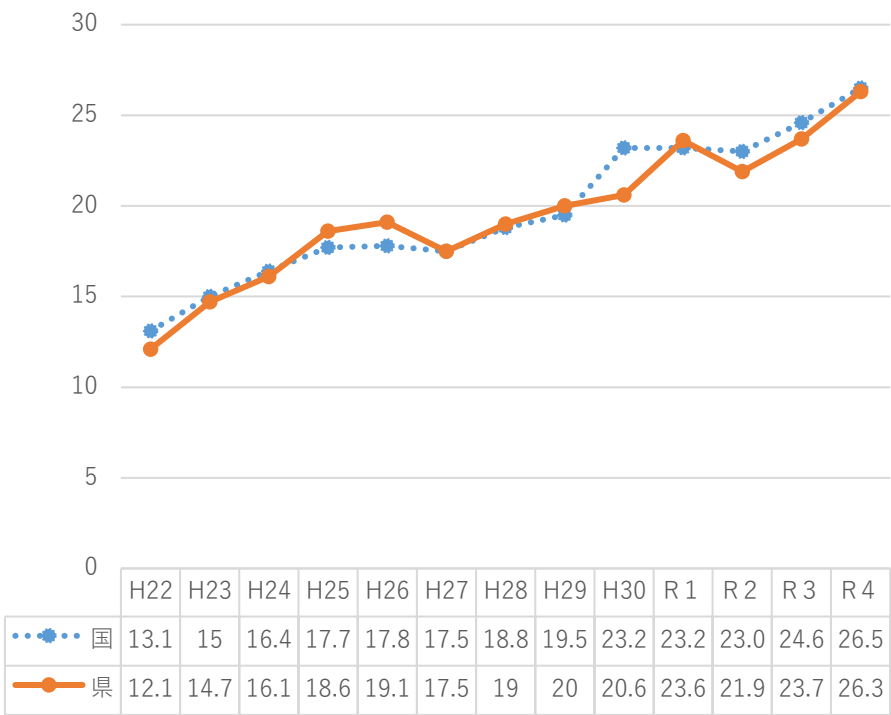
(1)-1 特定健康診査受診率・特定保健指導実施率について

特定健診受診率は、全国平均よりも高い率で推移しています。
また、特定保健指導実施率も増加しており、全国平均と並んでいます。

特定健康診査受診率（％）

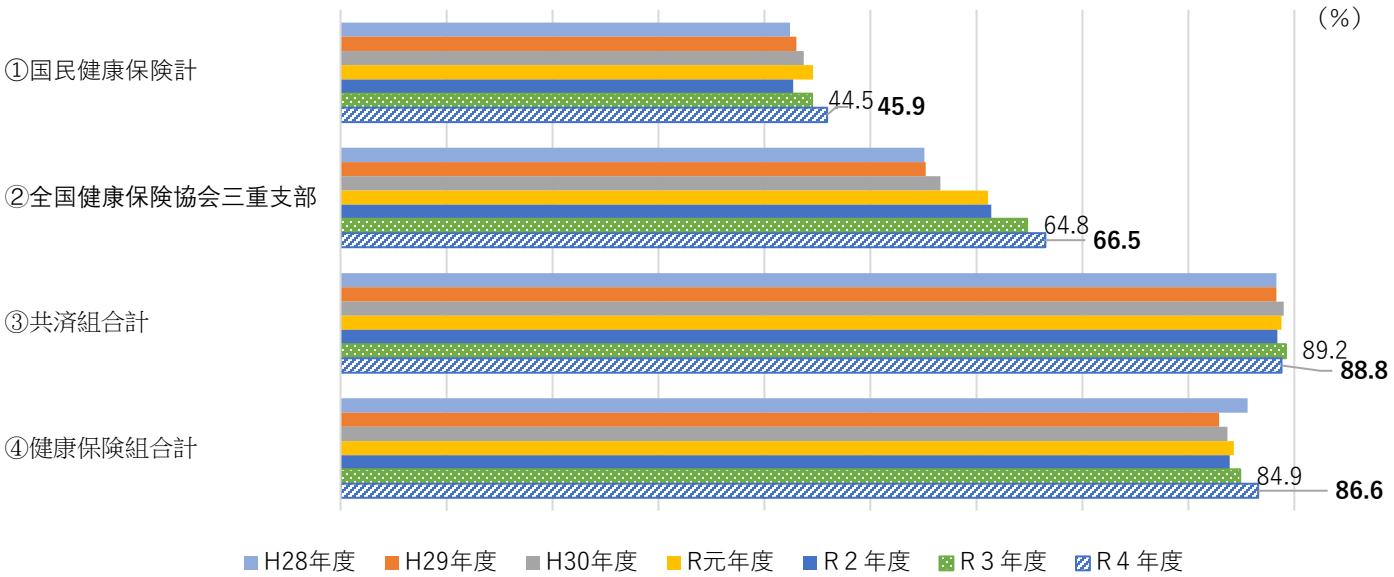


特定保健指導実施率（％）



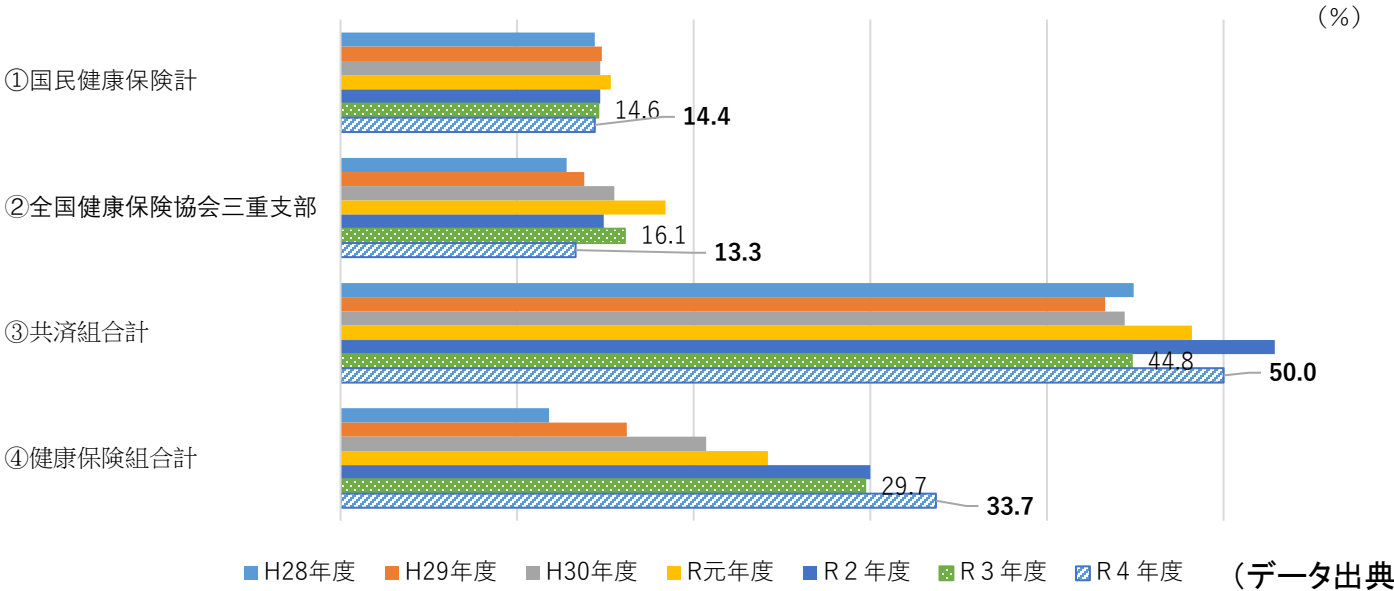
(1)-2 保険者別 特定健康診査受診率・特定保健指導実施率

特定健診受診率（保険者別）



令和3年度と比較すると共済組合計以外は健診率が増加傾向でした。

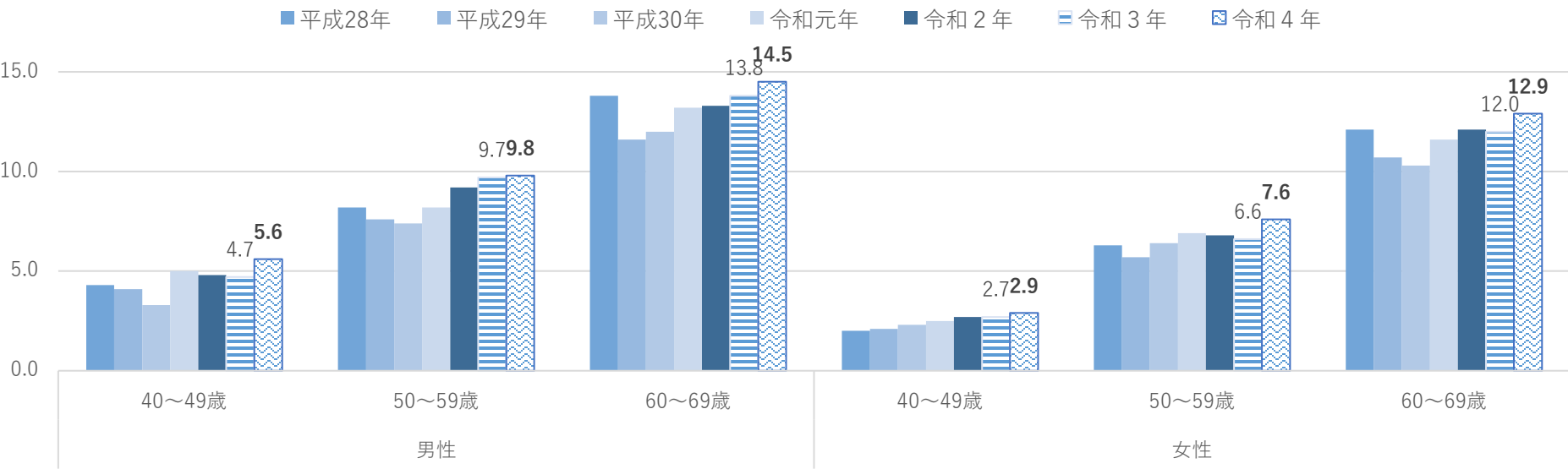
特定保健指導実施率（保険者別）



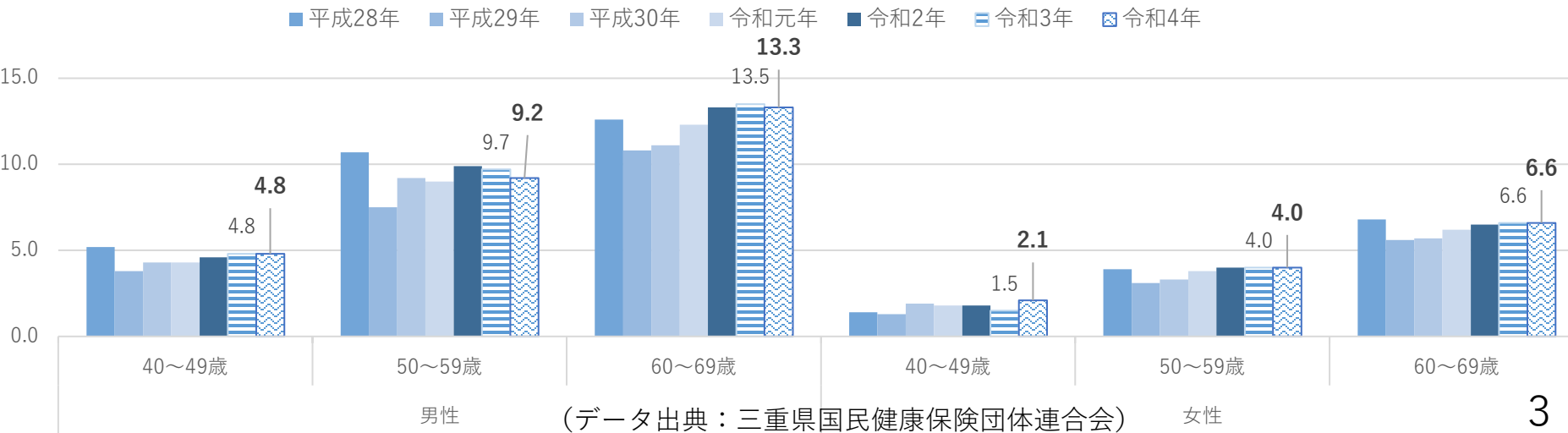
令和3年度と比較すると国民健康保険、全国健康保険協会三重支部は減少したが、共済組合と健康保険組合は大きく増加しました。

(2)-1 糖尿病の可能性を否定できない人(HbA1c 6.0%以上6.5%未満)の割合 及び 糖尿病が強く疑われる人(HbA1c 6.5%以上)の割合について

糖尿病の可能性を否定できない人 (HbA1c6.0%以上6.5%未満) の割合



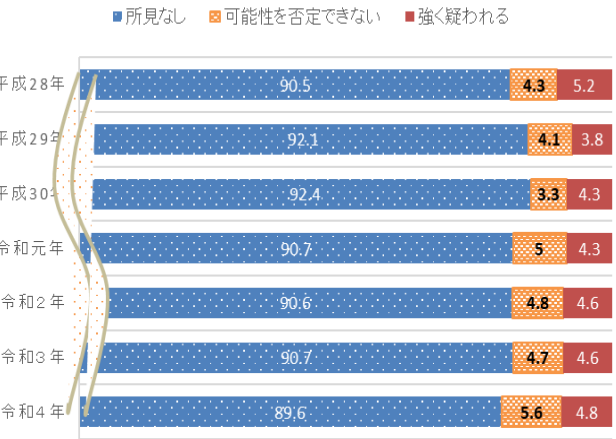
糖尿病が強く疑われる人 (HbA1c6.5%以上) の割合



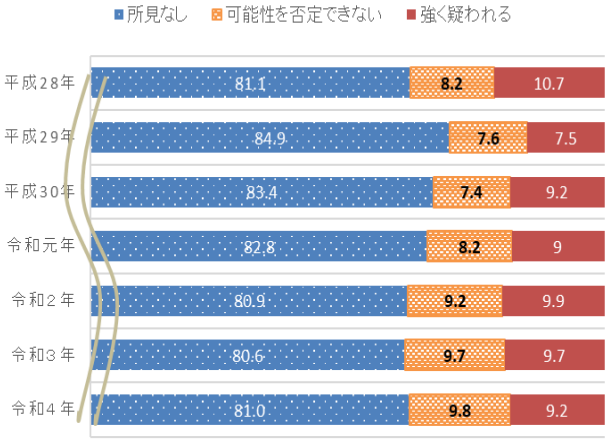
(2)-2 糖尿病の可能性を否定できない人(HbA1c 6.0%以上6.5%未満)の割合 及び 糖尿病が強く疑われる人(HbA1c 6.5%以上)の割合について

所見なしの割合は減少傾向です。男女とも40～69歳すべての年代で糖尿病の可能性を否定できな人の割合が増加しています。糖尿病が強く疑われる人の割合については40歳代女性以外は減少傾向です。

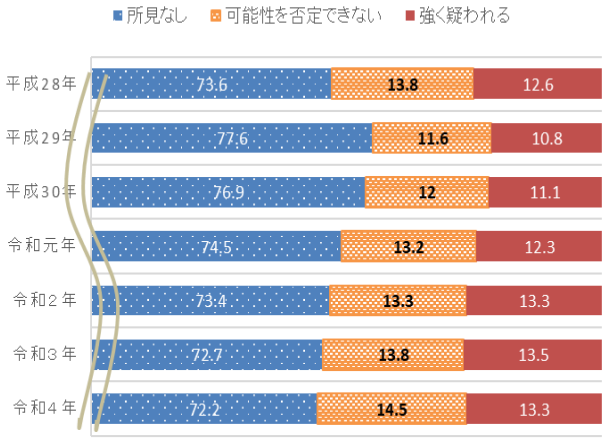
40～49歳 男性



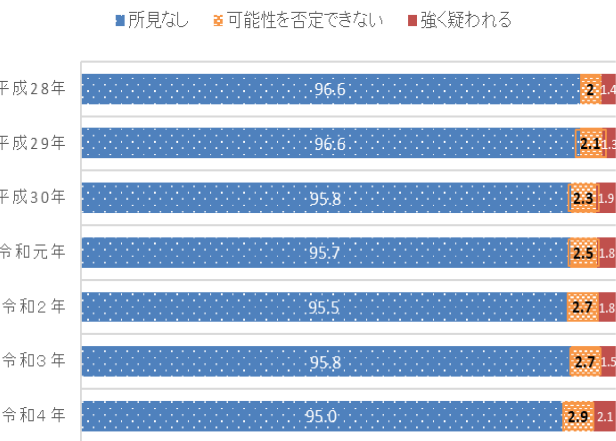
50～59歳 男性



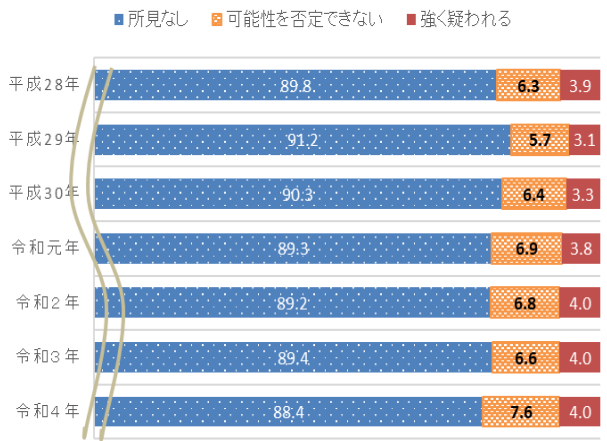
60～69歳 男性



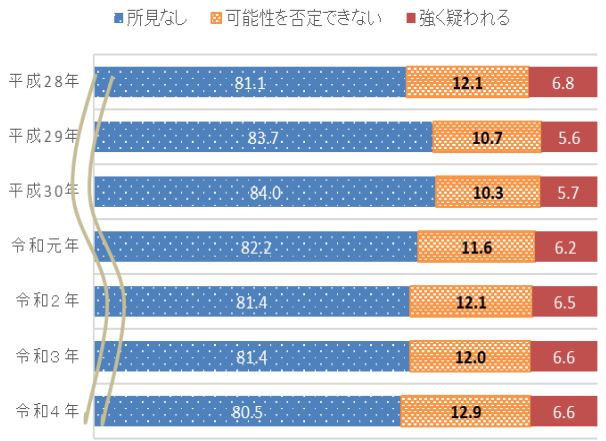
40～49歳 女性



50～59歳 女性

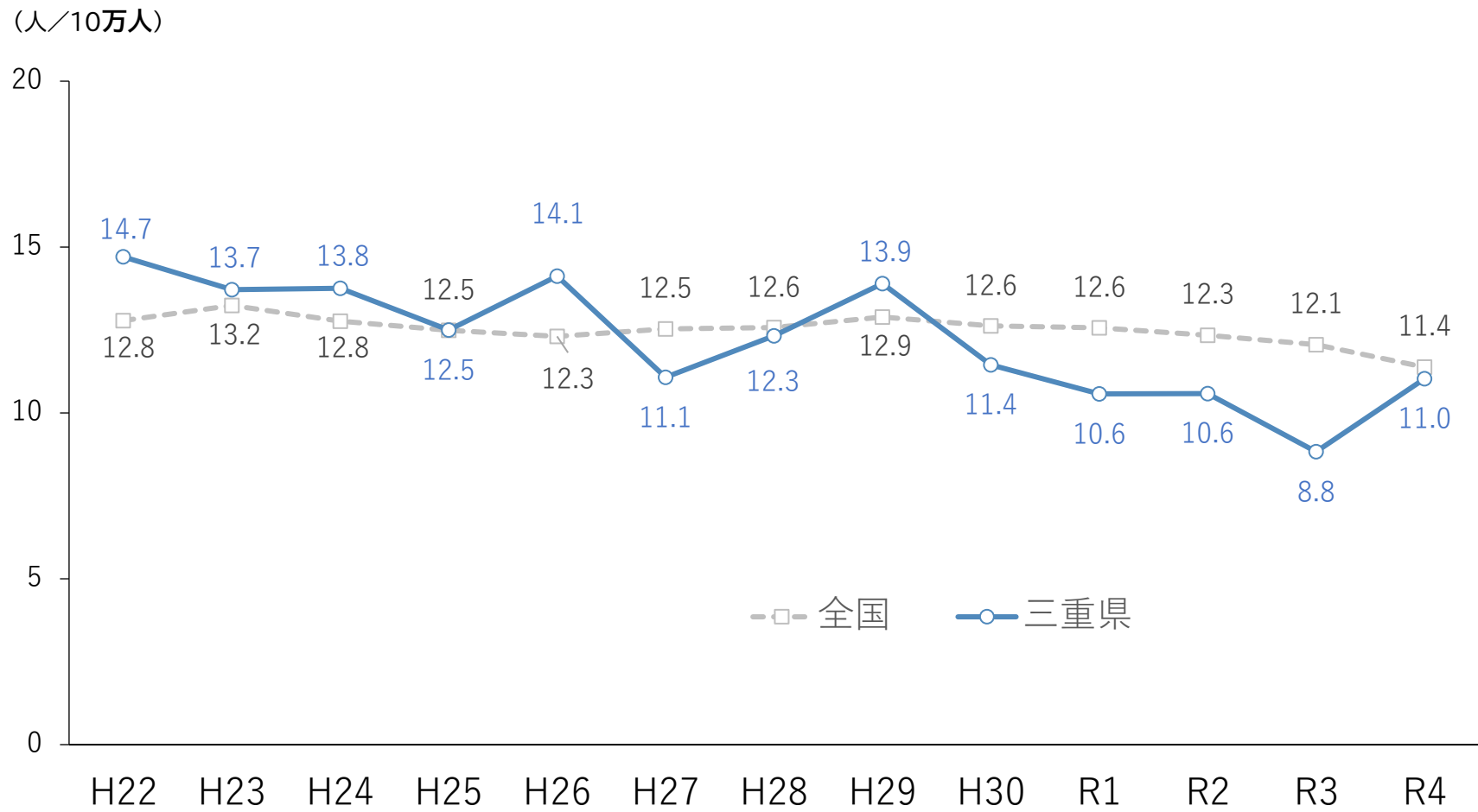


60～69歳 女性



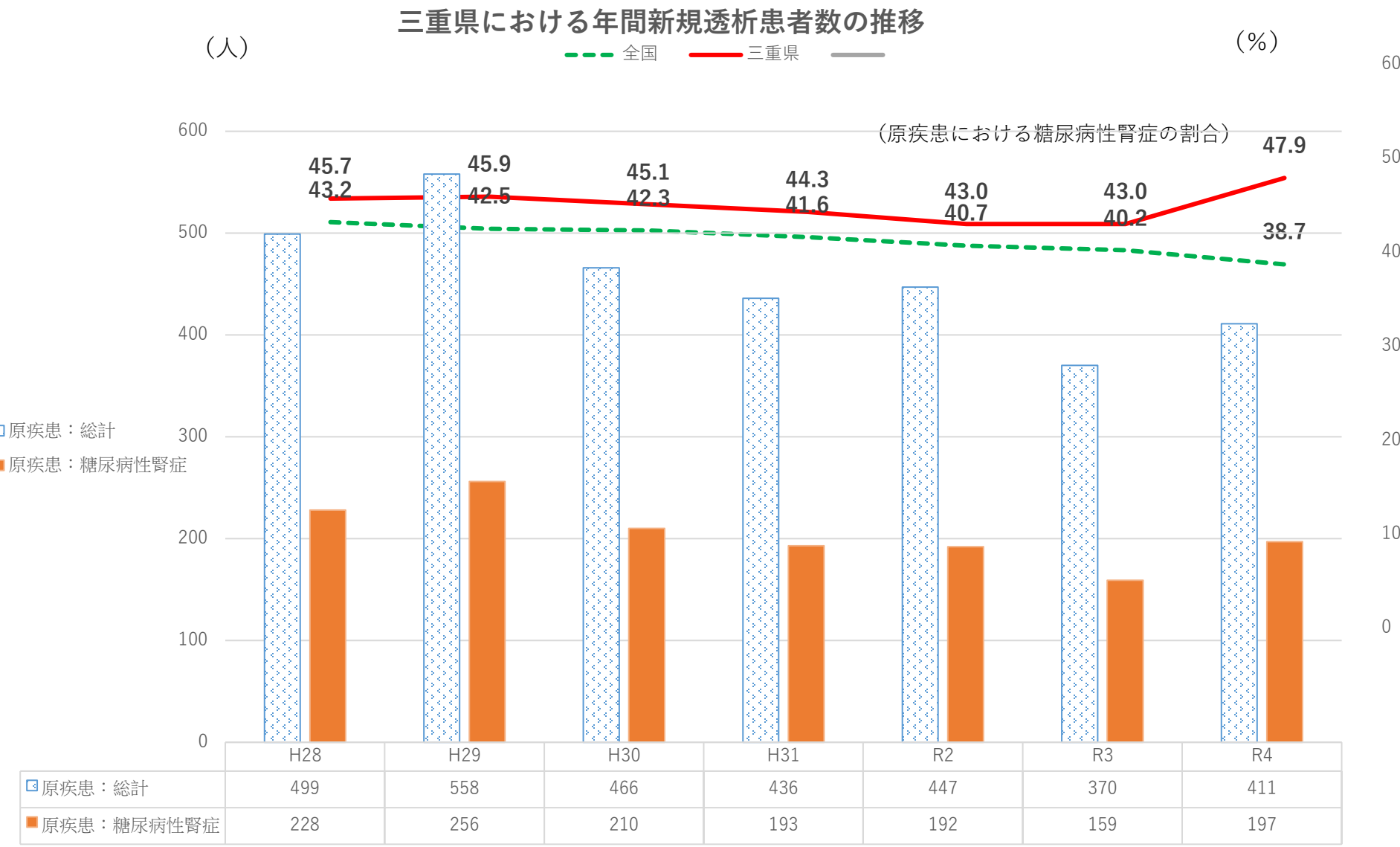
(3)-1 糖尿病性腎症による年間透析導入者数について

糖尿病性腎症による年間新規透析導入患者数（人口10万人あたり）



糖尿病性腎症による年間新規透析導入者数は、近年減少傾向にありましたが、令和4年は増加に転じました。

(3)-2 糖尿病性腎症による年間透析導入者数について



原疾患における糖尿病性腎症の割合は、全国では減少しましたが、三重県では増加し、全国平均との差が大きくなりました。

まとめ

【現状】

- (1) 特定健康診査受診率は増加しており、全国平均より高い水準で推移。特定保健指導実施率も増加しており、全国平均と並んでいる。
 - (2) 糖尿病の可能性を否定できない人の割合が男女とも40～60歳代すべての年代で増加している。
 - (3) 糖尿病性腎症による年間新規透析導入者数が近年減少傾向にあったが、R4年に増加している。
- 

【課題】

- (1) 引き続き特定健康診査の受診率向上をめざす必要がある。また、その後の受診勧奨や保健指導による適切な健康管理を行い、特定保健指導の実施率の向上に努める必要がある。
 - (2) かかりつけ医等関係機関と十分な連携を図りながら保健指導を実施することにより、個々の対象者に応じた支援を行う必要がある。また、未受診者に対して早期介入し、医療機関受診につなげていく必要がある。
 - (3) 患者教育の強化など、引き続き経過を見守りつつ、重症化予防対策を推進する必要がある。
- 

今実施している取組やこれから実施しようとしている取組の情報を共有し、連携を図りながらより効果的な取組につながるよう検討を深めていきたい。